貧困の中で生き 子どもたち

「もう、将来に夢を見ることはやめました。 だから、生きていていいのかわからないのです。

この言葉は、私たちが貧困家庭の子 ども支援を開始して間もない頃に出 会ったある少女が話してくれた言葉で す。私は今まで、子どもからこんなに 悲しい言葉を聞いたことはありません でした。この言葉は少女から「将来の 夢しも「生きる力」も奪われていること を示しているからです。

貧困の中で生きる子どもたちの多 くは、お金がない、食べ物や日用品が 買えない、生活保護を受けている、と いった経済的なことだけではなく、こ の少女のように、希望を持って生きる 力さえも奪われてしまっています。私 たちの想像を遥かに超えた状況に置 かれた子どもたちが日本にはたくさん いるのです。

貧困の中で生きる 子どもたちの深刻な実状

- ●貧困の中で生きる子どもたちの実 状は、経済的な困窮だけでは捉えきれ ない複雑なものです。例えば…
- ·不登校·ひきこもり·素行不良·自傷、 他害・乱れた性行動・性感染症・親、そ の交際相手からの虐待・不衛生な生活 環境が引き起こす感染症・精神疾患・ 発達障がい:知的障がい

貧困の中で生きる 子どもたちの複雑な家庭背景

(一部の家庭で見られた保護者の様子)

貧困の中で生きる子どもたちの深刻 な実状を裏付ける家庭の背景とは…

- ●知的障がいや発達障がいを抱える保護者
- 過剰服薬、薬物依存で自殺企図を 繰り返す保護者
- ●アルコール依存症で子どもに暴力 を繰り返す保護者
- ●双極性障がい、パーソナリティ障がい 等の精神疾患を抱えている保護者
- ●うつ病が悪化し心中企図を繰り返す保護者
- ●交際相手と一緒に子どもに暴力を 繰り返している保護者



- ●発行日/2018年<u>5月10日</u>

発行元 定非営利活動法人

ンズふくしま

〒960-8066 福島県福島市矢剣町22-5 2F TEL&FAX 024-563-6255

URL http://www.beans-fukushima.or.jp/ E-mail info@beans-fukushima.or.jp

NPO法人ビーンズふくしまは、不登校の 子どもやひきこもりの青年などに安心で きる居場所を提供し、1人1人に寄り添っ て、ゆるやかな社会参加を促し、その自立 を支援する、若者支援の理念に基づいて 事業を展開しています。



第16回法人総会 開催のお知らせ

今年も、下記予定で総会を開催いたします。 お忙しいところとは存じますが、ご参加く ださいますよう、よろしくお願いいたします。

日時/平成30年6月17日(日)

13:00~16:00 会場/市民会館第2ホール



講演会&対談 「不登校との向き合い方」

日時/平成30年6月17日(日)10:00~12:00

会場/市民会館第2ホール

- ●講演/福島大学 松下行則教授
- ●対談/福島大学 松下行則教授、 ビーンズふくしま 若月ちよ 不登校の子どもたちが、増えている中、私たち大人はどう向き合ったらいいの かを一緒に考えたいと思います。皆様、お誘い合わせのうえご参加ください。

貧困の中で生きる 子どもたちの過酷な家庭環境

貧困の中で生きる子どもたちの多くは、複雑な家庭背景とともに、過酷な家庭環境で暮らしています。例えば…

- ●家がゴミ屋敷のような状態で悪臭が充満している
- ■動物の排せつ物が落ちており不衛生
- ●電気、水道等のライフラインが停止 されることもある
- ●食糧が不足し、健康を維持するのに バランスの取れた食事を十分に摂 ることが困難

このように、複雑な家庭背景と過酷な家庭環境が継続された中で生きる子どもたちは、「生きる力」が低下してしまうのです。

私たちは「子どもの生きる力」を次のように捉えています。

- ●自分の実状に向き合い、困りごとを 認識できること
- ■問りに助けを求めることができること
- ●危険を回避する能力や技術を身に つけ、困難な出来事に立ち向かうことができること
- ●自分を信じ、将来に希望を持って生 きることができること





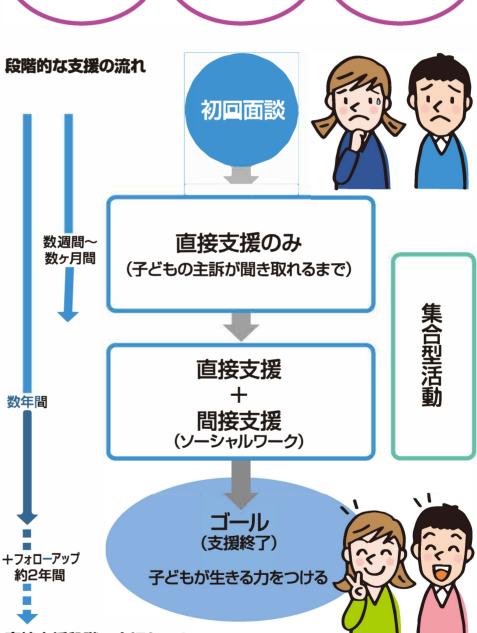
子どもが生きる力をつけ自立に向かうために必要で有効な支援とは

子どもの人権擁護を目的とした貧困対策支援の3本柱

アウトリーチ型 の直接支援

間接支援

集合型活動



直接支援段階で大切なこと

☑直接支援の初期段階では、子どもの主訴が聞き取れた場合や緊急時等を除いて、間接支援(ソーシャルワーク)を同時進行しません。

(間接支援(ソーシャルワーク)の準備は進めます。)

☑子どもの主訴が聞き取れるまでは、関係性を構築することを優先します。☑間接支援(ソーシャルワーク)を開始した後でも、直接支援は継続します。

貧困の中で生きる子どもたち

間接支援におけるソーシャルワーク機能

ソーシャルワークでは子どもの気持ちと エンパワメントの視点を中心に 据えて実施します。

> パーソナル サポート 機能

子どもの気持ちと 子どもの

ネットワーク構築 ソーシャルアクション 機能 ・ 子どもの エンパワメントの 視点

アセスメント

機能

代弁・代行 機能

情報提供

機能

ノウハウの 移管機能

集合型活動

貧困の中で、生きる力の低下した子どもたちは、社会から孤立してしまっていることも多く、自己肯定感が低下した状態です。こうした状況が継続されると自分の意思で自分の人生を決定していくことは難しく、将来に夢や希望を見出すことは困難です。そこで私たちは関わる子どもたちの自己肯定感が醸成され、孤立からの脱却が図れる段階に来たら、他者との交流や多様な学びの機会を提供することを目的に月に1回程度、集合型活動を実施しています。

活動内容は子どもたちと相談して決めています。運動会や宿泊学習、料理教室、物づくり講座等、様々な活動を通して、子どもたちの交流や、ストレスケア、基本的な生活後術・行動様式、多様な学びの機会を提供しています。

自立へ向かう子どもたち

貧困ゆえに複雑な家庭背景、過酷な家庭環境の中で生きる力の低下した子どもたちに必要な支援は、子どもの意思を尊重した関わりが重要であることを私たちは子どもたちとの関わりの中で学びました。

子どもたちのありのままを認め、すべてをひっくるめて寄り添うことが子どもの支援には必要なことなのです。

そうした関わりの中で、自己肯定感が 醸成されると、子どもたちは自分の言 葉で気持ちを伝えてくれるようになり ます。

そして、周りに助けを求めたり、他者 との関わりを求めるようになるのです。 こうして孤立から脱却し、他者と関わ る中で多様な学びを経験できる機会 が増えていきます。

その関わりの中で、自己決定する力、

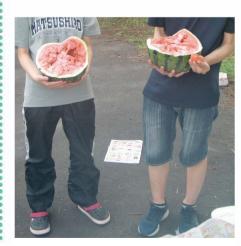
自立へ向かう力が育まれます。

この子どもたちの生きる力こそが、 貧困の連鎖を断ち切る力へとつな がっていくのです。

支援提供後の 子どもたちの様子

- ●重度のアルコール依存症の母と二 人暮らしで中学校から素行不良を繰 り返し不登校だった少年は、自ら復学 を希望し学校の先生方やその他たく さんの方の協力を得て、大学生になり ました。
- ●重度のうつ病の母と二人暮らしで 小学校から不登校、摂食障害で何年も の間、その存在すら地域から忘れ去ら れていた少女は、病院や就労支援機関 の協力を得て、希望する仕事につき、 生活保護を脱却し自らの手で自分の 人生を歩んでいます。
- ●薬物依存症で過剰服薬を繰り返す 母と二人暮らしで小学校から不登校、 PTSDの少女は、絵を描くことが好き で現在は、様々なイラストコンテスト 等で数々の賞を受賞し、自分の信じた 夢に向かって進み始めました。

私たち貧困対策支援事業県中チームスタッフは今日も明日も、子どもたちの自立へ向かう力を信じて現場へ向かいます。



赤い羽根共同募金、寄付キャンペーンに挑戦し

ビーンズふくしまでは、子どもや若者が安心して成長できる、フリースクール等の地域の中の「居場所」を創ってきました。しかし、運営は毎年大変厳しい状況です。これからの居場所の継続のため、1月~3月、赤い羽根共同募金「地域課題解決型募金」、寄付キャンペーンに取り組んできました。活動を行うにあたり、子どもたち、保護者の方々、地域の方に集まって頂き、「どうしたら私た

ちの活動を知って頂き、募金を頂けるか」の作戦会議を行い、その意見をもとに、地域の方にフリースクールに来て頂くイベントを開催したり、手作りの募金箱を置かせて頂いたり、研修会やイベント

で子どもたちの声を届けたりと、地道に活動してきました。

たくさんの温かいお気持ち、 ありがとうございました!

その活動の結果、目標金額100万円に対して、1,021,574円もの募金を頂くことができました!非常に大きな目標でしたが、皆様からの温かいお気持ちのおかげで目標金額を達成することができました。心より御礼申し上げます。この結果か

感じると共に、地域の「居場所」が、 皆様から期待されているということを大きく感じました。皆様からの思いに応えられるよう、子どもたちの笑顔あふれる居場所を一生懸命作っていきます。 地域の「居場所」の継続

皆様から頂いたご寄付は、フリースクールの施設の維持費、図書費、若者の地域活動にかかわる費用、子ども食堂の食材費等に使わせて頂きます。子どもたちが安心して人と繋がり、様々な社会活動を通して、多くの経験と自信を得ることので

ら、人の繋がりの有難さや温かさを

きる、日々の活動の資金として大切に使わせて頂きます。

この度はたくさんのご協力、本当にありがとうございました。これからもお力添えの程、どうぞよろしくお願いいたします。



アンケートのお願い

ビーンズ通信をいつもお読みいただき、ありがとうございます。また、アンケートへのご協力ありがとうございます。皆様のお声を反映させていただきながら、これからも通信作りをしていきたいと思っております。

そこで今回もアンケートのご協力をお願いいたします。同封しましたアンケート用紙にご記入の上、FAXにて返信いただくか、項目ごとに番号を記入の上、メールにてのご返信のご協力をお願いいたします。

ご寄付のお願い

日頃より、ビーンズふくしまの活動へのご 理解・ご協力をいただきありがとうございま す。また、このたびは、赤い羽根共同募金「地

域課題解決型募金」へのご協力ありがとうございました。

これからも、子どもたち若者たちが自分らしく生きていくことができる社会を めざして、取り組んでいきますので、今後も皆様のご協力をお願いいたします。

【銀行振込み】

●宍戸歯科医院

東邦銀行 本店営業部 普通口座 3692401

口座名義:特定非営利活動法人ビーンズふくしま 理事 若月ちよ 【郵便振込み】

口座番号:02240-3-38521 加入者名:NPO法人ビーンズふくしま ※なお、詳細は事務局にお問い合わせください。

また、お振り込みの際には事務局へご一報ください。





●ビーンズふくしまのホームページ こちらヘアクセス

http://www.beans-fukushima.or.jp/